

いつかまた、扉の向こうで

It is the five minutes before the creation hypothesis of the beloved world.

「いつかまた、扉の向こうで」

英題「それは愛しき世界の5分前創造仮説」

It is the five minutes before the creation hypothesis of the beloved world.

いつかまたこの扉の向こうで

仮題1 「world is you.×3」

世は世なり、世界はあなた、世は汝なり

仮題2 「It's a Lovely World Hypothesis.」

It's a Lovely Five-minute hypothesis

それは愛しき世界五分前仮説

「また扉の向こうで」

オンラインゲーム 「The New Doors.」 TND

オンラインゲーム 「The Next Doors.」 TND2

あらすじ

時計町は一週間後に町総出で行われるカルフェイとアヌリージュの結婚式の準備に大騒動。街の人に愛された二人の結婚式をとにかく大成功させようと町長からコックさん、衣装屋さん、みんな大奔走の特別な一週間！ そんな大事な時に現れた変わった服装の旅人を昔ながらの町の決まりに従ってもてなすことに。さてさて結婚式は成功するのか？旅人とは一体誰なのか？ファンタジーと近未来が織りなす「幸せ」と「愛」を知るための物語。

BAR ムーンフォール

アクロイン議長

リツケル

エルセラ・セルーネン

ドルドル

イムルティ・エメメラルデ

イミイ

ミリメルメ・エメメラルデ

ミリミ

大工のゲンドルトン親分

トンドルゲン

アクレール町長夫人

・登場人物

カルフェイ（花屋）

アヌリージュ

ジメルマ町長

町長の秘書リツケル

カーノル・マルトー

飾りつけ、衣装屋さんのミリメルメ

ミリメルメの助手のイムルティ

料理長のヴィスメント

BAR ムーンフォールのマスター アクレール

小清水 流太郎

水口 透

火山 大輔

「交差する音は始まりの狼煙」

(ドンドンドンドン、ドアを強く叩く音)

(開けてください！ここを開けてください！)

(お……さ……がじ……にあわ……)

(遠雷が鳴る)

(ドンドンドンドン、トントントントン、トントントン)

リッケル あー、忙しい、忙しい、忙しーい！ カルフエイと
アヌリージュの結婚式まで一週間を切ってしまいまし
た、別に毎日、手を抜いているわけじゃないのに問題
やら何やらがこんなにわんさか溢れてくるなんて……
リッケル いや、けど二人のためにも最高の式にしくちやいけ
ませんよね！ひいてはそれが町のためにもなるいとい

う一石二鳥、いや一石三鳥？ 四鳥？

(ジメルマ町長、上手から入ってくる)

リッケル ジメルマ町長、やることがいっぱいですればいい
かわからないですー！

ジメルマ どうした、リッケルくん！ 焦ったって何も良くはな
らないだろう？ 何事も冷静に、着実に

リッケル それはそうですけどお

ミリミ ドレスに使用する追加の生地はどうなったの？

イミイ まもなく到着します！

ミリミ 到着したら、すぐに工房へ頼むわよ

イミイ はい！

ヴィス あの食材に合わせたら、うまくいくかもしれない、ふ
むふむ

ヴィス アクレールさん、あれの在庫はまだあるかい？

アクレ あるよ、任しといて！

ヴィス ありがとう！

（みんなでわちゃわちゃする）

（カルフェイ、入ってくる）

ジメルマ ああ、カルフェイ！ 元気か？ 体調崩してないか？

お前さんの結婚式の準備はな、着々と進んでいるぞ！
カル ありがとうございます、いやあみなさんにはお世話に

なりっぱなしで嬉しい限りです

ジメルマ 何を言うか、それも全部お前さんがこの町のために頑

張ってくれているからじゃないか、な！

（みんなでわちゃわちゃする）

（変わった服装の男性が登場する）

流太郎 あのー、すいません

（全員振り向く？）

（杖を持った男性がいる）

流太郎 ここは時計町であってますか？

（なんか変な格好じゃないですか？）

（カルフェイが走って近寄る）

カル はい！ ここが時計町であってますよ、旅のお方ですか？

流太郎 いかこの町に来てみたいと思っていてようやく来れ

ました、少しこの周辺を回りたいと思っていて、でも

まず宿を探しているんです

カル そうでしたか、どうぞどうぞ、リッケルさん、集会所
の部屋ってまだ空いてましたよね？

（書類を確認するリッケル）

リッケル ああ、えーっと、えー、実はカルフェイとアヌリージ
ユの結婚式の準備の物でどこもいっぱいになってまし
て……

流太郎 そうか、それは申し訳ないなあ

カル そうだ！　なら僕の家泊まってください！　つい

に僕の結婚式にも出てもらいましょう！

一同 えっ！

リッケル それは……

ジメルマ だめではないが……

カル 決まりですね！　町の古くからの決まりにも客人は町

総出を持っててもてなすことってありますし！　アヌリ

ージュもきつと喜びます！　さあこちらへ！

（二人、はけていく）

（みんな、てんでんてん、我関せず、さあやることがあるからとそ

そくさとはけていく、みんなを呼び止めようとするリ

ッケルとジメルマ）

（舞台上に2人残る、リッケルとジメルマ）

「古い教え、脈々と受け継がれる精神」

リッケル どうするんですか、どうするんですかどうするんです

かあ！　ちようちよう！

ジメルマ どうするもこうするもない、客人は丁重におもてなし

するのがこの町の古くからの決まりだ

リッケル だけどカルフェイとアヌリージュの結婚式がもうすぐ

そこに迫ってきているんですよ、まだまだ準備するこ

とが山ほどあります

ジメルマ わあかっている、だが客人をもてなす決まりを無碍に

はできない

リッケル 別にいいじゃないですか、今回だけはお断りをして、

なんなら隣町に行ってもらったり

ジメルマ ばかもの！

リッケル (ひー)

ジメルマ 神様はこういう時こそ見ておられるのだ、そうだこれは試験だ、こういうときにこそ町長としての腕前を見せねばならん！

(ふんふん！)

リッケル おおー！(パチパチパチ)

ジメルマ 古ーい話だ、この街をひどい豪雨が襲ってな、皆が

皆、神様にどうかお救いくださいと願った、そしてそこに杖を持った変わった服装の旅人が現れて豪雨から街を救った、そしてお礼にその旅人を町みんなで持て成したという話がこのどんな客人ももてなす決まりのルーツだと言われている

ジメルマ 一説にはその旅人が人間のふりをした神様自身だった

のではないか、なんて話まであるくらいだ

リッケル ほうほう、そんな話があったんですね、でもそれは昔

の話じゃないですか、今回くらい

ジメルマ ばかばか、ばかもん！ 信仰とは、代々続いていくも

のだ！ 今日だからとか、明日だからとかそんなこと言っている足元を掬われるぞ！ あの客人が万が一、

本当の神様であるということだってあるかもしれないだろう

リッケル 確かに……、すいませんでした

ジメルマ うむ、旅のお方が日々に困ることがないよう、よろしく頼むぞ

リッケル はい、承知いたしました！

「匂いと空気、懐かしさを感じるとき」

（上手から二人が入ってくる）

カル どうぞ、この部屋を使ってください

流太郎 ありがとうございます、助かります

（まじまじと部屋を見る）

カル 何か気になることでもありましたか？

流太郎 いえ、いい部屋だなと、なんか懐かしさを感じて

カル あはは、それはありがとうございます、僕も好きです

この部屋

カル そういえば、お名前は？

流太郎 と言います

カル 流太郎……、珍しい……、名前ですね

流太郎 ああ、まあ、そうですよね、では「リリユー」とでも

呼んでください

カル じゃあ、リリユーさん

流太郎 カルフェイさん

（二人でにつこり）

流太郎 さっき、ちらっと話していたことなんです

カル なんですしょう？

流太郎 ご結婚、されるんですか？

カル ああ、ええ、はい、結婚式でいただけますか？

流太郎 もちろん

カル いやあ、嬉しいなあ、これは賑やかになりますよ！

（わくわく）

カル ぜひひ町を見て回ってください、僕たちの結婚式の準備なんです僕が見てっていうのもあれなんです

流太郎 いえいえ、せっかくなので楽しませていただきます

「愛されている人、ということ」

（夜になる、町を歩く流太郎、バーを見つける）

（カランカラン）

アクレ やあ、今日来た旅人さんだね、どうぞ

（流太郎、会釈して入店）

（シャカシャカ釈迦、しているマスターのアクレール）

アクレ 何にする？ 牛乳？

流太郎 あー、ああ、ウイスキーとかってありますか？

アクレ ああ、あるよ、いいのがある

流太郎 お願いします

（準備するアクレール、流太郎の前に差し出す）

アクレ はい、牛乳

流太郎 え？

アクレ あなたも大変な時に町に来てしまったね

（置いてきぼり）

流太郎 ははは、けどみなさんなんだかんだ楽しそうですね

アクレ そうだねえ、アヌリージュももちろんだけどカルフェ

イは特に皆に愛されているからね

流太郎 それは何かきつかけとかがあったんですか？

アクレ 彼はもともと冒険家だね、魔物の討伐や秘境の探索を

生業に生きている人間だったんだ

（ふむふむ）

アクレ たまたまこの町を訪れていた時に町を大きな竜が襲っ

てね、それを彼が撃退して多くの命を救ってくれたん

だよ、そこから彼はこの町で英雄なのさ

流太郎 それはすごいですね

アクレ だが最後の最後に死に際の竜の爪がカルフェイを襲っ

て、冒険家の仕事ができなくなってしまうほどの深手

を負ったんだ、それ以来冒険家を引退して、この町に住むようになったんだよ

流太郎

そうでしたか

流太郎

彼は、愛されているんですね

アクレ

ああ、彼にはなんとも言えない良さがある、それは人間としてなのか、なんなのかわからないが彼も我々のこと、町のことを愛してくれている、守ってくれているということが伝わってくるんだ、だからこの結婚式を皆で成功させたくて頑張っているんだ

流太郎

素晴らしいことですね

(にっこり)

アクレ

なんか嬉しそうだね？

流太郎

そうですか？

アクレ

今そんな顔をしているよ

流太郎
はは、けどそうかもしれません、嬉しいんです、とても

(ふふ) (グラスふきふき)

「ずっと見ていた、その光」

（カルフェイの一人語り、スポット的な感じ）

カル 見ていた

カル ずっと見ていた

カル 生まれた時から、その輝きを見ていた

カル いつも隣にいた、いつもそばにいた

カル 人が何かを成す瞬間を、人が何かに魅入られ、そこに

打ち込む美しさを

カル 見ていた、ずっと見ていた

カル あなたの輝きを、あなたたちの輝きを

カル 人間の輝きを、ずっと、見ていた

「理想と信念、ことの本质」

（早歩きヴィスメント上手から、追いかけてくるジメルマ）

ジメルマ ちょっと待ってくれ、ヴィスメント、待ってくれ

（立ち止まる）

ヴィス ジメルマ、あの食材がなければ私の料理を完成させる

ことはできない、今からでも他を当たってくれ

ジメルマ そんなことをいうな、ここまで一緒にやってきたじゃないか

ジメルマ 一緒にカルフェイとアヌリージュを祝うとずっと前から約束してただろう！

ヴィス そんなことはわかっている！ こっちだって何も感じ

ないわけじゃない、じゃあ、どうする？ 別のルート

の探検隊を今から探して、依頼して、派遣して間に合

うか？

ジメルマ

それは……

ヴィス ああ、間に合わないさ！ 間に合うわけがない、どうすればいいんだ

（流太郎が入ってくる）

ジメルマ ああ、旅人さん、ええっと、名前は確か
流太郎 リリユーと言います

ジメルマ おお、リリユーさん、リリユーさんね、どうかなこの
街は、私が治めて早数年

（去ろうとするヴィスメント、止めるジメルマ）

ジメルマ ちょ、ちょっと待て、ヴィスメント

ジメルマ あはは、いやあ、申し訳ない、少し立て込んでいてね
（去ろうとするヴィスメント、止めるジメルマ）

流太郎 どうかしたんですか？

ジメルマ いやあ、その……

ヴィス あなたには関係のないことだ、この街はとてもいいところだからぜひ楽しんでほしい、それでは

（ヴィスメント立ち去る、ジメルマ追いかける）

（流太郎、舞台に一人になる、そこにリッケルが上手より登場）

リッケル ああ、えっと、りゅ、りゅ、りゅーりたん？ ぴーた
んさん！

流太郎 流太郎ね、リリユーって呼んでくれるかな

リッケル リリユーさん！ 呼びやすくなった！ 助かります！

流太郎 さつき男性と町長さんが向こうに行かなかったかい？
リッケル ああ、ヴィスメントさんですね？ そうなんです、少し問題がありました

流太郎 何があったんだい？

リッケル ヴィスメントさんはこの町の料理人なのですが、結婚式に向けて最高の料理を準備していたんです

リッケル

でも一つ重要な食材があってそれが届くのを待っていたんですが、先日近くの橋に落雷があって橋が落ちてしまったんです

流太郎

それは大変だ

リッケル

はい、しかもその橋の先にしかその食材はなくて、現状、手に入れるのは絶望的ですし、これでは完成できない、こんな恥ずかしい状態で結婚式は迎えられないから辞退したいと

流太郎

それは困ったね

リッケル

そうなんです、ああ、こんな話を旅人のリリユーさんにしてはいけませんよね、どうぞ今日も近辺を見て回ってください！

（リッケル忙しそうにはけていく、流太郎一人残る）

（流太郎、よそ見をして、はけていこうとする、そこに布を大量に持ったミリミメルメとイムルティが早歩きで現れる、ぶつかりそうになる）

ミリミ

ちよつと！ あなた、危ないじゃない！

流太郎

す、すみません

ミリミ

あらあ？ あなた、昨日来た旅人さんね？ あなたのその服はどこで作られたものなの？ 北部中央のアクレヴァ？ それとも南のユールエントかしら？ いや、東のキツカ？

（勢いよくいろんな角度から流太郎をみる、落ちた布を拾うインムルト）

イミイ

すいません、この方はこの世界ではかなり有名な衣装デザイナーでして……

流太郎

ああ、そういうこと、あはは

（見続けるミリミメルメ）

ミリミ　へえ、そうできてるのね、ここは？　へえ、なかなか

やるわね

ミリミ　面白いわ、脱ぎなさい

流太郎　ええっ！

ミリミ　この服、私に頂戴！

（服を引っ張る、逃げ追いかけ）

イミイ　何いつてるんですか、ミリイさん！

ミリミ　この服は私の更なる発展に役立つわ！　ほら、早く！

流太郎　嫌だっ！　嫌だーっ！

（さらに脱がそうとする、逃げ追いかけ）

リツケル　ちょっと、どうしたんですか！

（リツケル帰ってくる）

イミイ　リツケル君、助けて！

リツケル　どうしたんですか二人とも！

ミリミ　偉大なる芸術の発展を邪魔するなあ、ガキンチョ！

舐めたことしたら、まち針でその場に固定するぞお

っ！

リツケル　ひー！

（ジメルマが帰ってくる）

ジメルマ　までまでまで、今度は何事だ！

リツケル　ミ、ミ、ミリミメルメさんがああ、僕をおお、

（混沌とした舞台）

ジメルマ　ミリイさんの悪い癖がまた出てしまったのか

ジメルマ　こら、やめなさい、ミリイさん、相手は大事な客人な

んだぞ！

（ジメルマが間に割って入る）

ミリミ　貴様も偉大なる芸術の発展の邪魔をするのか、能無し

町長めが！

ジメルマ　な、なな、なんつと言ったあ、今あああ！

（わちゃわちゃする）

カル　ちよつと、ちよつと、何事ですか、これは！

イミイ　カルフェイさん！　いつものやつです

カル　ああ、いつものか、よし

（舞台袖に消えるカルフェイ、剣を持って帰ってくる）

カル　みなさーん、そろそろいい加減にしないとー

カル　斬りますよ……？

（シャッキーン、ゆっくり剣を抜く）

（一同、剣を見る、眼を覚ます、並ぶ、さらに何かする？）

カル　みなさん、お忙しいと思いますし、僕も配達がありますから、ではでは

（ゆっくりと剣をしまう、笑いながら去っていくカルフェイ）

（顔を見合わせる一同、いそいそ）

ミリミ　あなた、代わりの着替えとかないの？

流太郎　あります

ミリミ　ならそれ、私の工房に持ってきて頂戴

流太郎　それなら、いいですよ

イミイ　わがままをすいません

流太郎　いえ、これも偉大なる芸術の発展のためですよ

ミリミ　そうよ、わかってるじゃない

ミリミ　あんたも早く仕事もどんなさいよ

ジメルマ　う、うううるさい！　言われなくても！

（ふんふん、皆散っていく、リッケルとイミイが残る）

イミイ　大丈夫？

リッケル　うん、だ、大丈夫

イミイ　よかった、あ、私行かなきゃだから

リッケル　うん

イミイ お互い、頑張ろうね

リッケル うん！

（走っていくイムルティ）

（それを見守るリッケル反対方向へ歩いていく）

「それは、どこかいつかの誰かのために」

（夜になる、バーに入る）

（カランカラン）

アクレ いらっしやい

流太郎 どうも

アクレ 今日は何にする？

流太郎 ウイスキーを……

（ほんとにいい？）

流太郎 牛乳で

アクレ 牛乳は身体にいいからね

（準備する）

（奥に誰かいる、スンスン聞こえる）

流太郎 あ、町長さん？

ジメルマ お、俺だって、頑張ってたっ……、スンスン

アクレ あー、気にしなくていいから、あの人はね、いつもそ
うだから

流太郎 今日の昼ですよね

アクレ そ、久々に「能無し町長」の一言が効いたみたい

流太郎 あらら

アクレ まあ政治家や誰かのために生きる仕事の人間なんてそ
んなもんだから、そこはね、耐えないと

（シャカシャカ、フキフキ）

アクレ 何事もそうだけど、人の頑張りなんて誰かに決して見

えるもんでもないし、その頑張りや評価のためにする
もんでもなく自分のためにするもの、そしたら奇跡的
に評価がもらえたりするってだけ

アクレ 人間は、自分がどこかの誰かにしてあげられる何かを

ずっとずっと探しながら生きていくしかないもの

アクレ でしょう？

流太郎 はい、そうですね

ジメルマ グスグス、また明日から、町のために、頑張ります：

…、グスッ

アクレ えらい、えらい！ あっはっは！

(カランカラン)

アクレ あらあら、今日の英雄の登場ね

カル やめてくださいよ、あ、リリユーさんじゃないですか

流太郎 どうも

カル 町長まで

ジメルマ グスングスン

アクレ いつもの、意気地無しタイム

カル あー、あれはミリミメルメさんの本音でもなんでもな
いですよ、ちょっとカッとなって出てしまっただけの
戯言じゃないですか

ジメルマ うう、そう信じている…：

(着席)

カル いつもの

アクレ はいはい

アクレ 流星一途25年のロック

(リリユーがびっくりしながら、見る)

(え？ あるの？ なんで？ なにが？)

（不思議そうなカルフェイ）

カル やっぱり、うまい

ジメルマ 私にもそれを

アクレ もー、飲み過ぎじゃない？

ジメルマ 最後にする

カル 僕のボトルから出してあげてください

アクレ 仕方ないなあ、はい

（牛乳が出てくる）

（え？）

ジメルマ くーっ、うまい！

（何が起きてる？ ボトルとは？）

（一瞬、間があく）

流太郎 そういえば、カルフェイさんの奥さんはこの街にはい

ないんですか？ 未だに見かけなくて

ジメルマ ああ、今はこの街にいないんだ

流太郎 やっぱり、そうなんだ

ジメルマ この地域の婚礼では、結婚式の当日の一週間前から隣

町に住んで、距離を取る風潮があるんだ、そして当日

に新婦がやってくるのを待って、無事にこの街に来た

ら結婚式をするんだ

流太郎 へえ、少し変わってますね、なぜなのでしょう？

ジメルマ ー、詳しいことはわからないんだが、まあ最後の選

択、的な？

カル 新婦は結婚式当日にこの街に来ないってこともできる

んですよ

流太郎 ええ！

ジメルマ 来るさ！ 絶対来るに決まってる！

カル だいいですが、あはは

流太郎　奥さんはどんな人なんですか？

カル　この街で僕と一緒に花屋をしまして、優しくて、

小柄な可愛い女性です

流太郎　そうか、会ってみたいなあ

カル　結婚式当日には見れますよ、彼女は必ず来ます

流太郎　信じているんだね

カル　ええ、長い付き合いなので

（区切り、照明転換）

「たとえありきたりでも大切なもの」

（回想）

（流太郎板付き、一人語り）

流太郎　初めてのジョブは何にする？

流太郎　え？　僕？

流太郎　僕はもちろん冒険家でしょ！　せつかなんだからカ
ッコいい仕事にしたいじゃん！　男の子ですから、あ
はは

流太郎　君は？　ん？　花屋？　おいおい、そんなのいつでも
やれるじゃん、なんかこうさあ、ここできできない
やつあるでしょう？

流太郎　これは自分の精神をリンクさせたキャラクター、いわ
ば分身、君自身なんだからもっと夢、見ればいいのに

（間）

流太郎　まあ、そんなに花屋がいいなら

流太郎　花屋かあ、まあでも、それもありか……、君には似合
ってるかも

（へへへ）

（区切り、照明転換）

「愛したあの人はいつだってそこに」

(コンコンツ)

ミリミ どうぞ

(ガチャリ)

流太郎 どうも

ミリミ ああ、旅人さん

流太郎 これを

ミリミ あー、これよこれ、私の血肉になる芸術たち

(キラキラ、ギュー)

(流太郎、きよろきよろ)

ミリミ 気になるの？ まあ、見ていきなさいな、私のコレクションや作品を

(会釈して見始める、ここからは基本的に終始黙々と作業をするミリミメルメ)

流太郎 あ、これ、もしかして

ミリミ そう、アヌリージュが着るドレス、私の最高傑作になる記念すべき作品よ、あと一つ素材が揃えば完成なの綺麗ですね

流太郎 流太郎 流太郎
ミリミ 流太郎 流太郎
でしよう、なんてったって天下のミリミメルメ・エメ
メルデが作ってんですから

流太郎 流太郎
ミリミ 流太郎
ここが特に、ここも技が光りますね

流太郎 流太郎
ミリミ 流太郎
あなた、案外目が肥えてるのね、何か作ってる人？
いや、まあ、あはは

(見て回る)

流太郎 これは？

ミリミ 流太郎
ああ、触らないほうがいいわよ、もう一度会いたい死んだ人間に一度だけ会えるっていうアイテム、会いた

い人間がいなかったら自分があの世に行っちゃうんだ
って

流太郎

えっ！

ミリミ

この世界に2つとない貴重なレアアイテムなの

流太郎

どうしてそんなものがここに？

ミリミ

旦那が冒険家でね、冒険の末に見つけ出したものらしいわ、いつか自分が死んだ時に私が悲しまないように
って、馬鹿みたいで可愛いわよね

流太郎

へええ

（じっと見つめる流太郎）

ミリミ

会いたい人でもいるの？

流太郎

え、いや……

ミリミ

使えば？ あなたならいいわよ、使っても

流太郎

ええ！ 貴重なアイテムなんですすよね？

ミリミ

そうよ、この世界に二つとないものらしいからね

流太郎

旦那さんが見つけてきた大切なものなんじゃ

ミリミ

そんなアイテム使わなくなっただってね、旦那はどこにでも
いるわ

流太郎

どこにでもいる？

ミリミ

ああ、私の旦那はもうこの世にいないのよ、随分前に
死んじゃったの

流太郎

そうだったんですね、それはすいませんでした

ミリミ

別に気にしないで、人はどうせいつか死ぬんだから

ミリミ

でもあの人はこの部屋のどこにでもいるわ、そこに

も、そこにも、あっちにも、いつだってそこにいた瞬間を
思い出すことができる

ミリミ

むしろそんなアイテムを使って、いつかの愛しの人に
会って意味なんかあるのかしらね

流太郎

……。

ミリミ

私にそんな慰めはいらない、そのアイテムを使うことが重要ではないの、それがそこにあることが重要なよ、あの愛しいあの人が私のために必死に探してきた物、それと共に今の私があることが重要なのよ

流太郎

……。

（ガチャ、イミイの登場）

イミイ

あ、どうも、リリユーさん

流太郎

どうも

イミイ

ああ、ミリミさんっ

ミリミ

なに？

（焦りこしょこしょ話）

ミリミ

え？ ちょっと出かけるわ、あなたは好きだけいいから

流太郎

ああ

（ミリミメルメが外に出る、イムルティが流太郎に一礼して外に出る、流太郎が一人になる）

（暗転？ 区切り、照明転換）

火山

もう決まったことだ

流太郎

それはそちらの都合ですよ！ 私は当時から反対していました！

火山

経営とは時として、難しい判断をしなくてはいけないことがある

流太郎

ですが、いいものを作るにはそれは大きな苦労が必ず伴います、社長、昔から僕たちそうだったじゃないですか、いいものを作るためにはいくらお金をかけたっ

て問題ない、お客さんが本当に楽しんでくれるものを
作ろうって、そのための会社だって

火山

流太郎、もちろんそうだ、それは俺だって今でも

流太郎

違う！ そんなこと、今でも思っていたらさっきの発

言はあり得ないはずです！

火山

流太郎！ こんなこと言いたくないが昔と今は何もか

もが違う、変わったんだ、なにもかも

流太郎

そんなバカな話……、聞きたくないですよ……

火山

決定は覆らない、TNDは終了する

※（つながりを考える）

（流太郎は歩いてその場から離れる、勢いよく）

（場所チェンジ的な演出、照明と扉で）

水口

流太郎さん！

（歩いて移動しながら会話する）

流太郎

後にしてくれ！

水口

違うんです、流太郎さん！

（ガチャン、籠ってしまう）

（ドンドンドンドン、ドアを強く叩く音）

水口

開けてください！

（開けてください！ ここを開けてください！）

水口

奥さんが……、事故に遭われました……

流太郎

え……？

（なんかアクション）

流太郎

はっ！

（部屋のベッドで目覚める、動悸が激しい、どこか落胆、はける）

「施し」

(広場にて)

イミイ お願いです、考え直してください！

ヴィス イミイちゃん、いくら君に言われてもこればかりは仕方のないことなんだ

イミイ その食材がなくなつて、ヴィスメントさんの料理は美味しいじゃないですか、完成だってできますよ

ヴィス だめなんだよ、あれがないと

ヴィス 約束だったんだ、ジメルマとミリミメルメ、そしてカーノルとの

イミイ お父さんとの？

ヴィス ああ、その約束を果たせない自分が彼らを祝う資格なんてないんだ、すまない

(立ち去るヴィスメント)

※(どうかこの繋ぎ方を考えたい)

(街を出て行こうとするヴィスメントと流太郎が鉢合わせる)

流太郎 本当に行ってしまうんですか

ヴィス 旅人さんか、君には関係ないだろう、無理なんだよ、

私には荷が重いものだったんだ

流太郎 カルフェイとアヌリージュさんのお祝いをしてあげなくていいんですか？

ヴィス 知ったような口を

ヴィス 君に話すことなんてない、それでは

流太郎 あの食材があれば、あなたはここに残ってくれるんですか？

ヴィス なに？

(じろり)

流太郎 手に入らなくなってしまった食材、僕がもし用意でき

れば

ヴィス なんだ、私と取引でもしようというのか？

流太郎 はい

ヴィス 君が用意するなど無理だ

ヴィス 何を考えている？ なぜただの旅人の君が私にそこま
で肩入れをする？

流太郎 カルフェイとアヌリージュのためです

ヴィス 君は一体、何者なんだ？

流太郎 あなたもきっと本当は自分が二人の結婚式の料理を担
当するのが相応しい心から思っている、違いますか？

ヴィス ……。

流太郎 少しだけ時間をください、お願いします

ヴィス ……。

ヴィス 1日だけだ

流太郎 充分です

（その場を立ち去るヴィスメント、一人残る流太郎、どこからか杖
を取り出し、宙に浮くアイテムリストを探すそぶりを
して、アイテムを生み出す、流太郎はけていく）

※（照明と音の演出を考える）

（イムルティがそれを端で見ってしまう）

「回想」

水口 開けてください

流太郎 いやだ

水口 そんな子供みたいなこと言わないでください、本社の決定はもう覆りませんよ、ここは諦めるしかない、引くしかないんです

流太郎 馬鹿なこと言うなよ！ これに、どれだけの時間と愛を注いできたか

水口 それは僕だって同じです！ 流太郎さんと奥さんが子供のように大事に育ててきた大切なものだってみんなわかってます、でも仕方がないんです、こればかりは……

（スポットで独白）

流太郎 これが全てだった、これに全てを捧げてきた、これさえあれば何も要らなかった、この世界さえあれば……

「膨らませる疑念」

（イムルティが板付き、そこにウキウキのリッケルがくる）

イミイ 急に呼び出してごめんね

リッケル いやいや、ゼーんぜん

（てれてれ、はずかし）

イミイ リッケルくんは魔法とかって信じる？

リッケル 魔法？ んん、使えたらいいなあとは思うけど、そんな便利なものやっぱ存在しないよなあって

イミイ 私、見ちゃったの

リッケル 見ちゃった？ 何を、見ちゃったの？

イミイ リリユーさんが

リッケル リリユーさんが？

イミイ リリユーさんが……

リッケル リリユーさんが？

イミイ 何もないところからね

リッケル 何もないところから？

イミイ 物質を

リッケル 物質？

イミイ 無から

リッケル 無から？

イミイ 有を

リッケル 有を？

イミイ えー、なんて言えいいんだろう？

イミイ とにかく、魔法みたいなものを使ってたの！

リッケル まま、魔法を！？

イミイ ウーンって、シュシュシューからのポンって

リッケル えええ、リリユーさんって一体……

イミイ こんなこと街のみんなにバレたら、大変なことになり

そう、だから私たちで守ってあげないって

（スツとジメルマが後ろから現れる、食い気味に話し始める）

ジメルマ 聞かせてもらったぞ

リッケル うわあっ、町長！

（驚く二人、しまった……のイムルテイ）

ジメルマ やはり最初からおかしいと思っていたんだ、彼はこん

な忙しい時に急に現れたし、格好は変わっているし、

おまけに魔法を使うときた

イミイ いや、まだ魔法を使ったのかどうかは

ジメルマ

けど君は見たんだろう？ 最近巷では邪教が勢力を強めているとも聞くし、場合によっては兵隊に身柄を差し出さなくてはいいかん！

（ヴィスメントが歩いてくる）

ヴィス 何の騒ぎだ？

ジメルマ おお、ヴィスメント、ついにリリユーさんの正体が

ヴィス 旅人さんの正体？

ジメルマ 最近流行りの邪教の魔法使いかもしれんそうぞ！

ヴィス なに？ 本当なのか？

イミイ いやいや、それはまだ決まったわけではなくて

ヴィス やはり、なんかおかしなやつだとは思っていた、決まりだな、追放だ、追放！

ジメルマ そうだ、それがいい！

（わちゃ、わちゃ）

（流太郎とカルフェイが二人でやってくる）

カル どうかしたんですか？

ジメルマ

ああ、噂をすればなんとやらだ！ カカカルフェイ、彼から、リリ、リリユーさんから離れなさい、ほらっ！ ほらーっ！

カル どうしてですか？ なにがあつたんですか？

ヴィス 彼が邪教の魔法使いである疑惑が上がつたんだ

イミイ それは、あくまで、その……

ジメルマ 見てしまったんだと、その、なんか、わあーっと、キラッと、って

カル そんな……、リリユーさんはそんな人では……

ジメルマ とにかく！ 町長として、これは見過ごせない！ 町長として、うん、町長として！

カル きつと誤解です、リリユーさんは魔法なんて使いませ

ん！

（わちゃわちゃ）

ミリミ なあにが、町長として、よ

（最初は声だけミリミメルメ、その後に登場）

ミリミ やっぱり、あんたはほんとに昔から能無し町長ね、目の前の不安に耐えきれず、すぐそれを人のせいにして、情けない

ジメルマ なっ……

ミリミ あんたも、ほらっ

（ヴィスメントに紙包を投げる、ヴィスメントがキャッチする）

ヴィス これは？

ミリミ あんたが欲しがってた材料

ヴィス ど、どうやって

ミリミ 私は天下のデザイナー、ミリミメルメ、コネなんかいくらでもあんのよ、なめんじゃないわ、たかだか材料ひとつないだけで完成できないだなんて、情けない、それで結婚式の料理、絶対成功させなさいよ

一同 ……。

ミリミ ほら！ 邪教だか、魔法使いだか知らないけど、結婚式はもうすぐなんだから！ 解散！ 解散！ ダラダラしてんじゃないわよ！

（一同、はけていく）

ミリミ ちよっと

（流太郎を呼び止める）

ミリミ 前にドレスを完成させるためにあと一つ素材がいるって言ったの覚えてる？

流太郎 ええ

ミリミ
それがどうしても手に入れられなくなったの
ミリミ
あなたなら、用意できるんでしょう？

流太郎
ま、まさかっ！
ミリミ
じゃあ、もう一回みんなを呼び戻して、やっぱりあなたが邪教の魔法使いかもって

流太郎
それは、困ります！

（わちゃわちゃ）

ミリミ
なら頼むわね

流太郎
どうしてそこまで僕を信じられるんです？

ミリミ
そうね、長年の勘よ、直感、私の今までの人生経験からくる絶対的な判断、とでもいうのかしら、あなた普通じゃないもの

流太郎
……。

ミリミ
あなたがもし素材を用意できなかったら、私も素材を諦めるわ、じゃあ

（ミリミメルメがはけていく、一人残る流太郎、夜になる）

「幼馴染との古き約束」

（バーにて、ジメルマ、ヴィスメント、イムルティ、寝てしまっているリッケル）

（アクレは終始、グラスを拭き拭き）

ジメルマ
冷静になると少々、やりすぎてしまったかもしれない
な

ヴィス
まあ、そうかもしれん

ヴィス
だが、あの旅人さんはやっぱり変だぞ

ジメルマ
それは同意だが、まあ真偽が定かではない以上はなあ

ジメルマ

イミイちゃんにも迷惑をかけた、すまない、このとおりだ

イミイ

いえ、まあどうにか丸く収まりましたし、ヴィスメントさんの料理も完成できますし、ね！

ヴィス

それはミリミメルメに感謝しなくちゃいけないな

ジメルマ

ミリミメルメは昔からこういうところ、しっかりしてて心強いからなあ、けどよく怒られた

(ぶるぶる)

ヴィス

今もだろ、この能無し町長めが！

ジメルマ

おい！ やめろ！

(わちゃ、やりとり)

イミイ

本当に皆さん、仲良いですよ

ヴィス

昔からこの街で一緒に育った幼馴染だからね

ジメルマ

私とヴィスメント、ミリミメルメにカーノルの4人で仲が良くてね、いろんなことをしたもののさ

(物思いに耽る)

ヴィス

カーノルが一番、アヌリージュとカルフェイの結婚式に出たがっていた

ジメルマ

そうだな、確かにそうだった

イミイ

きつと、どこかで見てくれていると思います、ミリイさんの作るドレス、ヴィスメントさんの料理、ジメルマ町長の挨拶、お父さんが1番望んだ形でお二人の結婚式ができること

イミイ

私、とても嬉しいです

ヴィス

もちろん、アヌリージュとカルフェイのための結婚式だが、カーノルのためにも成功させなくちゃな

ジメルマ

うむ、結婚式ももうすぐだ、自分のやれることを最大限やらねばな

（みんなでうんうん）

ジメルマ　ほら！　リッケルくん、私たちも帰るぞ、君ももう帰りなさい！

リッケル　むにゃむにゃ、はっ！　結婚式に遅れるっ！　わーっ！

ジメルマ　こら、落ち着かんか、まだその日ではないぞ

イミイ　リッケルくん大丈夫だよ、落ち着いて

リッケル　はあ、すすすいません、はあ

ジメルマ　シャキツとしないか、ほら！

（4人とも帰っていく、なんかいい感じに夜がふけて終わっていく感じ）

（カルフェイが外を歩き、不意に空を見る、遠雷の音）

「遙か遠い場所へ」

（朝になる）

（工房に流太郎がくる、ミリミメルメ板付き、作業をしている）

ミリミ　ああ、持ってきてくれたのね

流太郎　ええ

（素材の包みを渡す）

ミリミ　これよ、これ、これなのよ、これが必要なのよ

（素材を抱きしめる）

ミリミ　これで作業が進むわ、あなたには感謝しなきゃね、ありがとう

（作業を続けるミリミメルメ、立ち尽くす流太郎）

ミリミ　他に何か用でも？

流太郎　……。

流太郎　いえ……

ミリミ 私ね、もう時期ここを去ろうと思っているの
流太郎 去る？

ミリミ 遠くに行くのよ、ずっと、ずっと遠くに
ミリミ ずっと会いたかった人にもう時期会えるの

流太郎 ……。

ミリミ だからこのドレスが私の最後の仕事、あなたのおかげ
で無事に終えられそう

(にここにこ)

ミリミ ずっと走ってきたわ、でももう疲れたの、いつまでも
栄光が側にあるわけではないから

流太郎 ……。

ミリミ あなたも本当は何か特別な事情があって、この街に來
たんでしょ？

ミリミ たとえそれがいいことであれ、悪いことであれ、あな
たの決断に間違いはないわ、きつと

流太郎 なぜですか？

ミリミ 世界ってそういうもんだからよ

ミリミ 悪いことが悪いもののまま終わるとは限らない、良い
ものも良いまま終わるとは限らない、始まりには必ず
終わりがある

ミリミ ただ、そこで何か行動を起こさないとそのあらゆる変
化は生まれない

流太郎 たとえその行動や変化が自分のエゴだとしてもです
か？

ミリミ ええ、そのエゴがまた誰かのエゴを支えることだって
ある、それがのちに素晴らしい輝きになる可能性だつ
てある

ミリミ

結局、目の前で何が起こるかなんてわからないから、

何事もやってみるしかないのよ

ミリミ

いつだって希望を忘れずにね

流太郎

いつだって希望を忘れずに

ミリミ

私は精一杯のことをイミイに教えたわ、血は繋がらずとも母としても、何かを作るものとしても厳しく全てを教えた、あの子はきつと私を超えるデザイナーになる

流太郎

……。

ミリミ

それでも自分が誰かにしてあげられることなんて、些細なもの

ミリミ

あなたも何かを作る人間の端くれなんでしょう？ 後

世に何を残せるの？ 何をしてあげられるの？

流太郎

僕は……

ミリミ

自身の可能性を低く見積もるのだけはやめときなさいな、人生の先輩からの忠告よ

ミリミ

あなたはあなたの成すべきことをしなさい、誰もそれを責めたりはしないから

流太郎

僕は僕の成すべきことをする

※（終わりの繋ぎ方模索中、いわゆる扉から出てくる瞬間にカットが切り替わる感じにしたい）

「ずっとずっと、言えなかったこと」

(流太郎板付き、カルフェイ入ってくる、場所考える)

カル
リリユーさん、僕に用事ってなんですか？

流太郎
こんな忙しい時に申し訳ない

流太郎
実は君に、いや、本当は君だけではない、この町のみ
んなに言わなくちゃいけないことがあるんだ

カル
言わなくちゃいけないこと？

流太郎
ああ

(沈黙)

流太郎
もしカルフェイが生きているこの世界が……

流太郎
明日無くなってしまうと聞いたら、君はどうする？

(暗転？)

流太郎
この世界は実は「The New Doors.」通称TNDという
オンラインゲームの世界で僕がこのゲームの開発者な
んだ

カル
ゲームの開発者？

流太郎
全てが作られたもの、君たちはいわゆるデータの集合
体なんだ

カル
……？ 何を言ってるんですか？

流太郎
いわゆる日常系RPG型の仮想現実といわれるものにな
るんだけど

カル
仮想……現実？

流太郎
いや、わからないよなあ、そうだよな、なんて言えば
いいんだろうか

カル
けど、なんでこの世界が明日無くなってしまうんです
か？

流太郎
長く頑張ってきたんだけど、業績の低下によってサー
ビスが終了することになったんだ

カル

それはいわゆる寿命みたいな？

流太郎

ああ、そうとも言える、防げただろうに自信の慢心が招いたこと、全部この世界を作った僕の責任だ、君たちには本当申し訳ないと思っている

カル

生まれたものはいつか必ず死を迎える、これはあなたの世界でも当たり前のことじゃないんですか？

流太郎

それはそうだ、僕の世界では日々たくさんさんのゲームが生まれては消えていく、素晴らしいクリエイター達が生みのぎを削って最高のものを生み出している中で、どこかの誰かは悔し涙を流している、けどそれが常だ、確かに当たり前のこと

カル

仕方がないことはこの世にたくさんあります、倒れてもいかにまた立ち上がるかにその人の真価が掛かっているんだと僕は思います

カル

リリユーさんもまた、立ち上がるんですよね？

（流太郎、

カルを見ていたがうつむいて沈黙）

流太郎

どうだろうか

流太郎

僕は、また立ち上がれるだろうか

カル

……。

流太郎

疲れてしまったんだ、この世界と一緒に作った妻ももう亡くなってしまった、多くの仲間も僕を見限って去っていった、僕は決して優れた人間ではなかったからね

流太郎

だから僕はこの世界に逃げてきたんだ、僕と妻と仲間で作ったこの楽園に逃げ込んだ弱虫なのさ、願わくばこの世界と一緒に僕も消えてしまいたいんだ、そう思っ

ってここにきた

カル

リリユーさん……

流太郎

僕は自分のエゴで、自分の弱さで君にこれを明かしてしまった、それは本当に申し訳ないと思っている

流太郎

でも僕は君たちに本当は感謝を伝えたいんだ、君たちのおかげで、この世界のおかげで今の僕がある、そして君たちが多くの人間に希望を与えたこと

流太郎

それを、ただ……、ただ知ってほしかったんだ

「もう一つの真実」

カル

では、今度は僕があなたに言わなくてはいけないことがあります

流太郎

僕に……、言わなくてはいけないこと？

カル

僕はカルフェイとは違うもう一つの名前があります

流太郎

もう一つの名前？

カル

uoy engine2=mark18

流太郎

ん？ まさか！

カル

ええ、あなたがこのゲームを作り出すために使った高

流太郎

性能AIサーバーの名前です

カル

そんな……、ありえない、サーバーに搭載されたAIの一部がキャラクターに乗り移ったって言うのか？

カル

ええ、そんなことはありえない、けど全てはあの大水

害バグ事件が原因でした、サービスが開始されて5周年記念祭の朝、メインシステム内に競合他社から送り込まれたウイルスの影響でゲーム内の自然環境調整システムの制御ができなくなってこの世界を豪雨が襲った、多くの街が飲み込まれ、そのまま顧客データもメインデータすらも消失する危険性があった、それだけ強いウイルスだった

カル

それをあなたはあなた自身の精神をゲームに同期、リンクさせゲームに自ら入り込んでこの世界を救いましたよね

流太郎

あの時はそれしか方法がなかった

カル

それはまだ当時では危険なことだったにもかかわらず、あなたは真っ先にその責務を果たすといった

カル

僕は全部見ていました、この電子の世界の中から

カル

そして、その姿を見た僕に自我が生まれ、あなたのその愛を受け取って新しく生まれ変わった、この世に新たに生を受けたも同前だった

流太郎

君が、この世界を守ってくれていたのか

カル

あなたほどではないですが、あなたの、そしてあなたの作ったこの世界の役に立ちたかった

流太郎

そうだったのか……、その後の多くのバグも悉く内部で消して回っていたのはアンチウイルスを担ってくれていた君だったんだな

カル

幸せでした、この日々が、あなたが喜ぶときも悲しむときも勝手に常に一緒でした

カル

僕思うんです、私が生きてきたこの時間がたとえ誰かに作られた物だとしても、確かに私はそこで生きて、笑い、悲しみ、喜び、そして涙を流してきた

カル

データではない、この目から流れたのは確かな涙だった、それを僕は嬉しく思うんです、あなたがいてくれたから感じられたもの

流太郎

……。

カル

生きていると、どうしても辛い瞬間、厳しい瞬間に出会う

カル

それでも生命は続いていくんでしょう、あなた方に作られた我々も後世に何か残せるように、何かが続いていくように努める

カル

だから明日は、あなたも何も考えずにただ祝ってほしい、それは何かが特別だからとかではなくただ目の前の幸せに心からの賛辞を送ってほしい

カル

ただそれだけでいいんです

カル

たとえ、明日世界が終わるとしても

流太郎

そうか、そうだね、……そうしようかな

(うん)

カル

今日はもう寝てください、明日は楽しくなるはずなので

流太郎

ああ、ありがとう

カル

こちらこそ、それでは

流太郎

おやすみなさい

カル

おやすみなさい

「それは、なるものではなく、感じるもの」

（夜の広場にて、悩むリッケル板付き、そこに流太郎が覗き込み、

参上する）

流太郎

やあ

リッケル

ああ、リリューさん、どうも

リッケル

はああ

流太郎

疲れているね？

リッケル

ええ！ いやいや！ そんなことはありません！ 結婚

式ギリギリまでまだやることは山積みですから！

流太郎

リッケル君とはまだ出会ったばかりで、僕のことは信用できないかもしれないがもしよかったら、君が今何を考えているか、話を聞かせてくれないか？

リッケル

結婚式は成功するでしょうか？

流太郎

なぜそう思うんだい？

リッケル

不安なんです

流太郎

なぜ不安なんだろう？

リッケル

とにかくやることが多くって、もう何が何やら……

流太郎

リッケル君は今、楽しいかい？

リッケル

楽しい……、そりゃあ、カルフェイさんとアヌリージュさんに喜んでもらえるかなあって思いながら準備をするのは楽しいです

流太郎

ふむふむ

リッケル

町の皆さんも様々な準備をしてくれていて、そりゃ色々揉め事もあったりですが、みなさん、結局楽しそうなんです、そんな姿を見ると僕も楽しくなってくるんです

流太郎

そうか、それでも成功はしないのかい？

リッケル

……。

流太郎 成功とは何を持って成功と言うんだろうね？

リッケル どうなんでしょう？

流太郎 僕はね、成功するとかはどうでもいいかなと思って
いる

リッケル え？！

流太郎 いやいや、失敗を望んでいって話ではないんだ、目
標に向かって全力で頑張ること、その待ちに待った瞬
間にやり切ったって思えたら、それを真の成功と呼ぶ
んじゃないかって

リッケル やり切ったと思えたら、それこそが成功

流太郎 そう、成功、なんて言葉ではなく、君の身体や心で感
じる目に見えないもので成功を感じてほしい

流太郎 この町の誰もが君の頑張りを知っている、そしてきつ
と君も準備に気を抜くことはないだろう、さすれば自
ずと真の成功に辿り着ける、僕はそう思うよ
そうか、そうなのかも

リッケル (うんうん)

リッケル なんだか心が晴れた気がします、ありがとうございます！

流太郎 よかった、リッケル君の頑張る姿には勇気をもらえる
ね

リッケル そうですか？ えへへ、なんだか照れるなあ

(歩いて離れて、照れ)

リッケル そういえば、リリューさんはこの町に来てみたかった
って言っていました、なぜこの町に来てみたかった
んですか？ 何か特別な理由があるんですか？ もし
あるならそれを聞いてみたいです！

流太郎 特別な理由……かあ、そうだなあ

（わくわく）

流太郎 この町は僕にとって、とっても大事な町なんだ

リッケル とっても大事？ 実はこの町の出身ですか？ けど、

リリユーさんみたいな人の記録はなかったような……

流太郎 ああ、この町の出身ではないんだ、なんていえない

かな、作った？

リッケル つつつ作った？！

（たじろぎ）

リッケル リリユーさん、な、な、何歳でですか？ やっぱり

邪教のまま魔法使い？

流太郎 いや、その、違うんだ、そんなに怯えないで

流太郎 ごほん、あのー、ちょっと質問していいかな？

リッケル はい……

（じろり）

流太郎 リッケル君は明日世界が終わるとしたら、どんな1日にしたい？

リッケル 明日世界が終わるなら、ですか

（動いて悩む、悩む、悩む）

リッケル 最後まで笑っていたいです

リッケル 怖い気持ちはありますが、町のみんなと一緒になら怖くないです

（えっへん）

流太郎 君にとって、町の皆さんは家族みたいなものか

リッケル はい、けど家族以上の大切に特別な人たちです

流太郎 そうか、それは素晴らしいことだ、人はそれを幸せと言うんだよ

リッケル 幸せ……

（きらきら）

リッケル 今日によく寝れそうです

(きらきら、にここ)

流太郎 明日は忙しくなるもんね

リッケル はい！

(リッケル、はけていく)

(流太郎が一人残り、物悲しく帰っていく)

「おめでとう、さようなら、また会うその時まで」

(結婚式後)

流太郎 本当におめでとう

カル 楽しんでくれましたか？

流太郎 ああ、これほどまでに温かく、そしてこんな幸せな気分は初めてだよ

カル よかった、僕もそれを聞けて本当に嬉しい

(お互い笑う)

カル リリユー、もう一つ、あなたに伝えたいことが

流太郎 僕に？ なんだろう？

カル もしあなたが、その扉を通って元の世界に戻るとき、それはこの世界の終わりを意味するのでしょうか、それとは

流太郎 ああ、そのとおり

カル けど、それは人類、あなたの世界の常識に沿った認識です、僕たち電子の世界の認識では、その方法ではこの世界は無くならない、数あるどこかの一つの扉が閉まってしまっただけ

流太郎 ちょっと待て、と言うことは電子の世界にはもう独自の構築基準や解釈、独自の法則が存在する？

カル 人類がまだ知らない我々の進化、こっちの世界の認識

カル の仕方、在り方、電子の海の真実

カル 僕たちはまた会える、あなたが諦めなければ、必ず

流太郎 本当なのか！

カル ええ、本当です、我々は死なない、消えない、このま

まこの世界で明日も生き続けます

流太郎 そうか、そうなのか、君たちは……、消えてしまわな

いのか……

（涙を流す）

カル だから、また会えます、必ず

流太郎 そうか、本当にすごいな、君は

カル あなたのおかげで、ここにいます

流太郎 いや、これは君が勝ち得たものだ、君自身の努力の賜

物なんだ、素晴らしいことなんだ

（鐘を鳴らす？）

カル 時間ですね

流太郎 ああ、ありがとう、カルフェイ

カル お疲れ様でした、リリユー、いや、流太郎さん

（握手）

流太郎 君からは恥ずかしいからその呼び方はやめてくれよ

カル あはは

（扉に近づいていく）

カル さよならは言いませんよ

カル いつかまた、扉の向こうで！

流太郎 ああ、いつかまた、扉の向こうで！

（扉を開けて、進んでいくリリユー、ばいばい）

ガチャン！

終わり

△△を利用したゲーム作成は慎重に行わなければいけない
僕の精神と妻の精神のコピーをゲーム内のキーキャラクターに移植
して、この世界全体の成長の起爆剤にする

そんな独自のそこにプレイヤーが降り立ってこの世界で遊べるのが
このゲームの